

簡易施設を利用した『京 夏ずきん(夏どり丹波黒2号)』の収穫期前進技術の確立

■開発のねらい

夏季のエダマメは産地間競争が激化しており、市場サイドからは府内産黒大豆エダマメの7月上旬からの出荷要望があります。

そこで、簡易施設(無加温ビニルハウス)を用いた半促成栽培により、7月上旬収穫かつ目標収量(400kg/10a)が可能となる栽培体系を確立しました。

■技術の効果

- 3月25日頃に播種(4月5日頃定植)することで、収穫は6月20日頃まで前進可能(図1)
- 3月25日播種では400kg/10a(目標)を上回る収量(図1)
- 条間を縮めて(畝幅90cm1条植→畝幅120cm2条植)密植することにより収量が向上(表1)
- 早期収穫栽培では加熱時のマルトース含有量が増加(図2)

■経営への効果

- 既存の機械設備を活用した場合、ハウスを新設しても1棟(6×40m)あたり36,958円の部門所得(表2)

■普及のポイント

- 低温時に育苗するため、育苗床には電熱温床を設置します。
- 本ぽにおいてはハウスの開閉および灌水管理を行います。
- 露地栽培と比べハダニの発生が増加するため、生育期にはダニ剤の散布を要します。

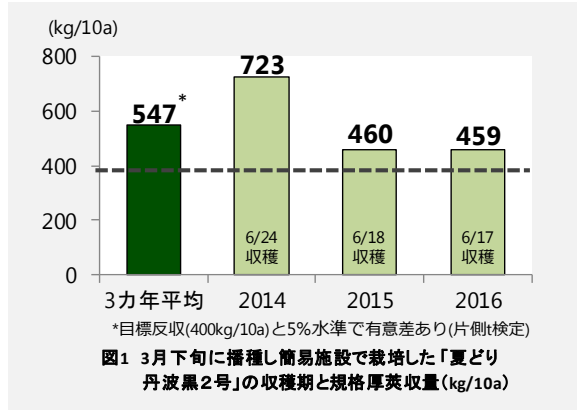


表1 播種期・栽植様式の違いが「夏どり丹波黒2号」の収量に与える影響(2016)

試験区	栽植様式	英厚10mm以上英		合計	
		英数 英/㎡	英重 kg/10a	英数 英/㎡	英重 kg/10a
3月25日	標植	134	459	324	790
	密植	164	518	338	849
4月15日	標植	151	561	280	815
	密植	187	678	345	981

・標植は畝幅90cm×1条植え、密植は畝幅120cm×2条植え

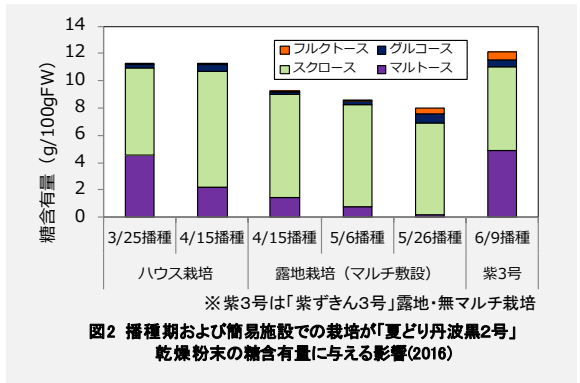


表2 ハウス1棟(6×40m)あたりの経営試算

項目	金額
粗収入	販売収入 ¥108,000
	合計 ¥108,000
経営費	種苗費 ¥10,853
	肥料費 ¥1,955
	農薬費 ¥2,599
	諸材料費 ¥8,610
	販売手数料 ¥25,596
	合計 ¥49,614
減価償却費	簡易ハウス ¥21,429
	合計 ¥21,429
部門所得	¥36,958

・反収500kg/10a、単価1,000円/kg
 ・ハウスの建設費は1,200,000円、自己負担率50%とする。
 ・機械設備は既存のものを使用

